

高校サッカーの現状

ゴールデンウィーク期間、子供の試合を観戦してきました。

そのフェスティバルには「前橋育英」「静岡学園」「四日市中央工業」「富山第一」など、インターハイや冬の選手権の常連校と対戦するというものでした。

そこで気になったことがあったので皆様に報告したいと思います。

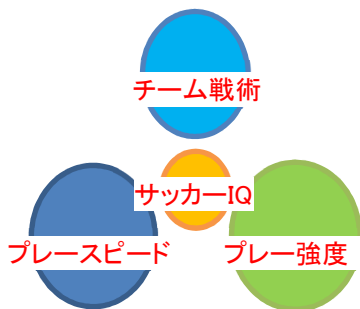
こういった話は、その年代(今回なら高校生)にならないと見えてこない『未来』の話です。

言ってみれば『お客様の未来』を先に見てきたので、参考にさせていただければ幸いです。

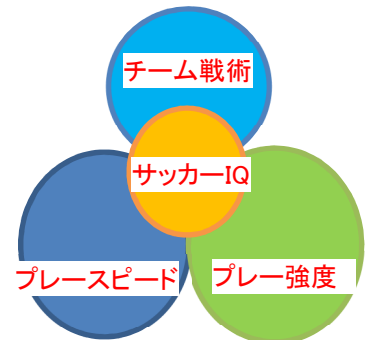
各校、AチームとBチームが同行しており、どちらも観ることができました。

そこで“AチームとBチームの差”、また強豪校でも“愛知県と他県の差”が何なのか？を分析しました。

【愛知県】



【他県】

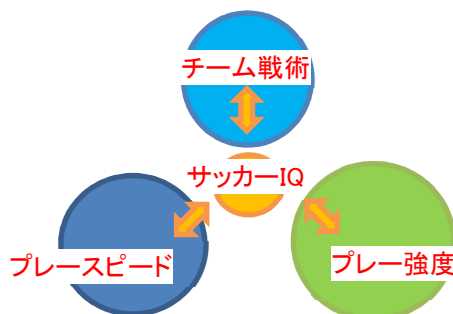


以上が差であると感じました。

フィジカルの強さや、足の速さについては、メチャクチャ速い子もいないし、逆に遅い子もいません。

それではなぜプレースピードに差が出てしまうのか？それは『プレー強度』の差であると思われます。

そのプレー強度を強くするためには『サッカーIQ』と『日常の当たり前のプレーの強度』が関係するものと考えられます。



※サッカーIQ がすべての中心
そのサッカーIQ がすべての要素を引き寄せ
一つにするというイメージ
バラバラでは繋がらない

小学生年代は足技、足技といって、必死にクローズドスキルばかりやっている節が見受けられます。

■クローズドスキル : 自分の思い通りにボールを扱える技術

→ボールタッチ、リフティング、コーンドリブル、壁当て等の一人で出来る“反復練習”

しかし、そのクローズドスキルは大切ですが、それがすべて(目的)になってしまっているのが問題なのです。

意図もなくで目立ってしまっている子がもてはやされているのが現状です

クーバーでもウォーミングアップの時は、技術を伸ばす時間なので徹底的に向上させることを目的としています。

しかし、これだけではいけないのです。

クローズドスキルはあくまで対自分、1人で完結するスキルのことです。

サッカーは一人でプレーするスポーツではありません

やってることの【やり方】がわからなければ、【使い方】が効果的に発揮できないということです。

それを補うのは『サッカーIQ』です。

サッカーIQが高ければ、要領よく練習もでき、本質に沿ったプレーを試合で発揮します。

私は選手に『未来』で活躍できるように指導しています。

「今」だけでなく、「未来」に目を向けた指導が大切なのではないのでしょうか？

日ごろの練習レベルから、未来を逆算した指導をしなくてはならないと思っています。